

導入事例

京都精華大学



液晶ペンタブレットの導入により、
学生のモチベーションだけでなく、
スキル習熟のスピードも向上



Cintiq 22HD touch

2014年4月から、京都精華大学マンガ学部は、株式会社ワコムの液晶ペンタブレット「Cintiq 22HD touch」を45台導入。グローバルな視野からマンガ、イラスト分野のデジタル化に対応する人材育成に活用しています。

導入前の課題

- 国内外のエンタテインメント業界における急速なデジタル化に対応した人材育成
- 初めてデジタルで作品制作を行う学生がアナログ感覚で制作に取り組める環境作り
- アナログで絵を描くスキルを基盤にした、よりクオリティの高いデジタル制作のスキルの習得

導入後の効果

- アナログ感覚で作品制作が可能になり、制作のモチベーション、スキルが向上
- スキル習熟のスピードも向上
- 入学希望者にとっての大学・学部の魅力度が向上

世界で活躍するためには、 デジタルスキル習得が必須

京都精華大学マンガ学部が、液晶ペンタブレット「Cintiq 22HD touch」を導入した背景には、これまで多数の人材を輩出してきたエンタテインメント業界において、デジタル化が急速に進んでいる現状があります。京都精華大学では以前より、デジタル制作のためのスキルの向上に積極的に取り組んできましたが、2013年度キャラクターデザインコースが新設されたことで、さらにデジタル化を推進することになりました。キャラクターデザイン分野は、業界内でも特にデジタル化が進んでいるジャンルで、また、ワールドワイドな活躍が期待できる業界でもあります。クリエイターにとって、世界で活躍するためには、今やデジタルのスキルは必須と言えます。したがって、学生時代からデジタル制作に慣れることは、将来活躍の場を広げる上でも必要不可欠です。

京都精華大学マンガ学部では長年、「Intuos」シリーズなどの板型ペンタブレットを使った授業を行ってきました。さらに新設したキャラクターデザインコースの学生全員には、MacBookとワコムの「Intuos5」を購入してもらい、課題制作に役立てる施策を実施してきました。そして、最先端のデジタルのスキルを身につける次のステップとして、液晶ペンタブレット「Cintiq 22HD touch」を導入しました。今回「Cintiq 22HD touch」導入に尽力された、マンガ学部キャラクターデザインコースの准教授 西野公平先生によると、「本学部の新入生には、大学に入って初めてペンタブレットに触れる人が多い。しかし、紙に絵を描くのと板型のペンタブレットを使って描くのとでは、絵を描く感覚にギャップがあります。よりクオリティの高い課題制作に取り組むために、慣れ親しんだ紙とペンと同じ感覚で直感的に描ける液晶ペンタブレットを導入すべき」と考え、理事会で実際に液晶ペンタブレットを使って導入を提案しました。

キャラクターデザインコースでは 1年次から授業で使用

現在、マンガ学部では絵を描く実習授業の一環として、各コースで「Cintiq 22HD touch」が使用されています。1年次には筆やペンを使ったアナログでの作品制作により、絵を描く基本的なスキルを重点的に学び、その上でデジタルのスキルを高めるようにしています。しかし、業界のデジタル化が急速に進むキャラクターデザインコースでは、1年次よりアナログでの絵の制作と共に、「Cintiq 22HD touch」を使った簡単なマンガ制作などを学びます。そして2年次からは、本格的なデジタルでのキャラクターデザインのカリキュラムを推進。より積極的に液晶ペンタブレットを使った授業に取り組んでいます。

キャラクターデザインコースにおける「Cintiq 22HD touch」の実習授業では、主にAdobeの「Photoshop」と「Illustrator」を使用。マンガを描くときはCELSYSの「CLIP STUDIO PAINT」という、初心者にも使いやすいソフトウェアを使用しています。また、現在の2年生が3年次を迎える来年度からは、Adobeの「After Effects」など動画編集ソフトのカリキュラムにも取り組む予定です。細かい作業を行う必要がある動画編集では、大画面上でペンによる直感的な操作が可能な「Cintiq 22HD touch」は、学生にとってより身近で扱いやすいツールとなるものと講師陣は期待しています。

学生のモチベーションとスキルが向上

「Cintiq 22HD touch」が導入されたことで、学生が作品制作に取り組むモチベーションやスキルが目に見えて向上していると、西野先生は言います。それまでデジタルでの制作が未経験の学生も、液晶ペンタブレットなら紙に

描くスキルがそのまま活かせるので、板型ペンタブレットからスタートするよりもデジタル制作に早く慣れ、絵を描きやすく感じることで作品制作へのモチベーションや集中力も格段に向上。紙と同様の描きやすさは作品制作のスピードアップにも繋がり、より数多くの作品を意欲的に手がけられることで、さらにスキルアップしていくという相乗効果が得られています。

「Cintiq 22HD touch」の導入は、講師側にも多くのメリットを与えています。学生のモチベーションの高まりとスキル習熟のスピードアップによって、円滑な授業の進行につながっています。また、「Cintiq 22HD touch」のタッチ機能が、作品の添削指導に役立っていると言います。「Cintiq 22HD touch」では、学生の使っているペンを借りなくても、そのタッチ機能により指ですぐにソフトウェアのメニューを開き、具体的なアドバイスができます。その利便さは、実際に授業を行っている西野先生も実感しています。

「Cintiq 22HD touch」は、入学希望者へのアピールにも大いに役立っています。オープンキャンパスでは、高校生向けの液晶ペンタブレット授業体験ワークショップに、毎回希望者が殺到。まだ触れたことのない最先端の液晶ペンタブレットを使った授業が受けられるということは、進学先を模索する高校生にとっても大きな魅力のようです。

京都精華大学における「Cintiq 22HD touch」導入は、マンガをはじめ様々なコンテンツ制作の分野におけるデジタル化の進展、液晶ペンタブレットの普及と軌を一にしています。液晶ペンタブレットを活用できることが、学生の業界への就職においても、今後の作家活動においても、ますます有利に働くことでしょう。

